

不安を抱える女性へのつながりサポート相談支援事業【群馬県】

個別事業費	15,005 千円
交付金額	11,106 千円

地域の実情と課題

【実情】

- ・群馬県では非正規で働く女性が多い。
- ・女性DV相談件数が増加傾向にある。
- ・不安や困難を抱える女性が依然として多い。

【課題】

- ・女性が抱えるさまざまな不安や困難を解消するための支援が必要
- ・根強く残るジェンダーバイアスの解消の取組

事業の特徴

- ・事業実施期間 令和7年4月～令和8年3月
- ・県内を3地域(中北毛・西毛・東毛)に分けて、女性支援に実績のあるNPO法人に委託し実施
- ・電話相談に加え、SNSやメール、来所相談を受付
- ・訪問支援や市役所等の手続きのための同行支援
- ・ワークショップなどによる居場所づくり(管内市町村との連携含む)
- ・相談員のスキル向上や人材育成・養成のための研修

事業の効果

- ・本事業で対応した相談者数(延べ数) 1,241人
- ・事業で相談対応した相談者数(実数) 212人
- ・受託NPO法人3団体とも、法人の持つ知見を活かし、アウトリーチ支援、同行支援、居場所づくりの提供など、きめ細かな支援を実施することができた。
- ・支援機関や市町村との情報共有や連携が図られたことで、NPO法人との関係性や協力体制が構築された。
- ・相談員の研修としてスーパービジョンを実施し、相談スキルの向上と各受託団体の相互の連携ができた。また、県こころの健康センターや性暴力被害者サポートセンター、女性相談センター等が主催する会議や研修(対面及び動画)にも出席(視聴)し、情報共有を図った。

目的・目標

【目的】 困難な問題を抱える女性の心身をケアし、相談をきっかけに最適な支援機関につなぐこと、また、女性が地域から孤立しないよう中長期的に関わりを持ち続け、安心できる居場所や仲間づくりの場を提供することで、問題の解決に導く。

	目標・KPI	目標	実績	達成率
事業目標	DV等の被害者支援相談窓口を「いずれも知らない」人の割合	20% (アウトカム)	50.60% (令和6年時点)	39.5%
事業KPI	本事業で相談した相談者数(実数)	220人 (アウトプット)	212人	96.4%

連携団体

・「群馬県女性相談支援ネットワーク会議」(「ぐんま・ほほえみネットネットワーク会議」)の構成団体

社会福祉協議会、子ども食堂ネットワークぐんま、市町村、県女性相談支援センター、民間DVシェルター、県男女共同参画センター、県こころの健康センター、児童福祉課(児童相談所所管)、国労働局職業安定課、ハローワーク、委託先NPO法人

今後の課題

- ・周知や相談におけるSNSの活用により、昨年度と比較して若年層の相談者数は増加傾向にあるが、他の年代と比較すると依然として少ないため、県のYouTubeやSNS等も活用して、周知広報により力を入れる。
- ・委託団体をはじめとする相談事業に取り組む民間団体が、自立した活動を継続して行うための人材確保や、相談体制のさらなる充実を図るための連携先拡充を目的として、周知広報に取り組む。

事業の概要

不安を抱える女性へのつながりサポート相談支援「ぐんま・ほほえみネット」

全県配布ちらし（県作成）

女性に寄り添った相談

○委託期間

令和7年4月～令和8年3月

○NPO法人等へ委託

- 電話やSNS・メールによる相談、アウトリーチ、同行支援
- ワークショップなどによる女性の居場所の提供
- ちらしやカードによる相談支援の周知広報
- 生理用品を相談者に無償配布
⇒ 女性用品等の配布をきっかけに支援につなげる
- 相談員のスキル向上や
人材育成・養成のための研修会実施

（周知カード・ちらし）



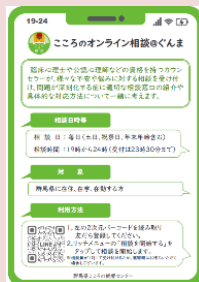
ぐんま・ほほえみネットネットワーク会議

○会議内容

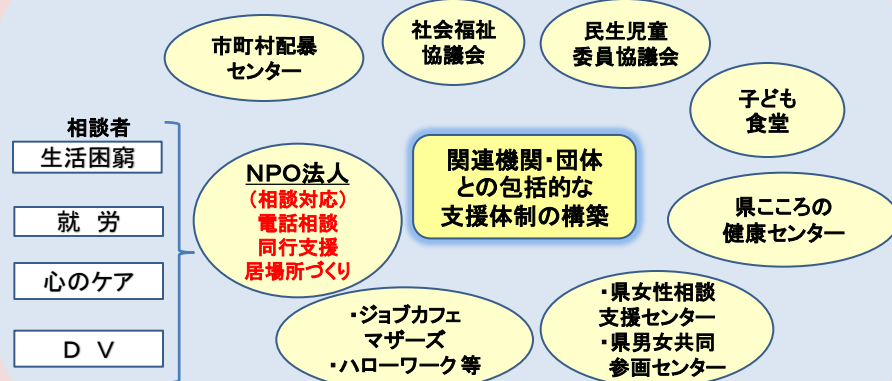
- 委託先NPO法人の活動状況報告
- 関係機関からの情報提供
- 事例紹介
- 課題解決へ向けた意見交換等情報共有



（活動状況報告）



（関係機関情報提供）



相談者
生活困窮
就労
心のケア
DV

- 市町村配偶センター
- 社会福祉協議会
- 民生児童委員協議会
- 子ども食堂
- 県こころの健康センター
- NPO法人（相談対応）電話相談 同行支援 居場所づくり
- 関連機関・団体との包括的な支援体制の構築
- ・ジョブカフェ マザーズ
- ・ハローワーク等
- ・県女性相談支援センター
- ・県男女共同参画センター